



草津市【滋賀県】 歴史文化基本構想

■ 策定年度：平成31年3月 ■ 人口：134,224人 ■ 市域面積：68 km²
■ 担当課：草津市教育委員会事務局歴史文化財課（平成31年3月現在）



草津市は東海道・中山道が分岐・合流する交通の要衝であり、史跡草津宿本陣に象徴される近世の宿場町であった。中世末に琵琶湖の湖上交通を管理した芦浦観音寺や草津のサンヤレ踊り等、北部には信仰に関わる文化財が残されており、南東には史跡瀬田丘陵生産遺跡群野路小野山製鉄遺跡等の古代の生産遺跡が展開するなど、本市の多様な文化財をまちづくり等に活用していく。

5 歴史文化を表す
つのキーワード

ものづくり文化、船奉行芦浦観音寺、信仰文化、
宿場と草津宿本陣、街道と湖畔の港

課題

- ・文化財の公開・活用機会の創出と
情報発信の推進
- ・文化財の担い手の高齢化

保存活用方針

- ・文化財の総合的な保存・活用
- ・文化財を継承するための情報共有
- ・文化財の保存・活用のための体制
づくりの推進

保存活用のための取り組み

埋蔵文化財発掘調査報告会の 開催

毎年「草津の古代を掘る」と題し、1年間の発掘調査成果の報告会を開催している。毎年のテーマに合わせ当日には遺跡から出土した遺物の展示・解説を行い、過去の発掘調査成果の活用を図る。



文化財見学会・講座などの開催

市内外問わず依頼に応じて、文化財の見学・解説や文化財に関する講座を開催している。市内小学校では授業の一環として古墳等の見学会を実施し、子どもたちの興味関心の向上を図っている。



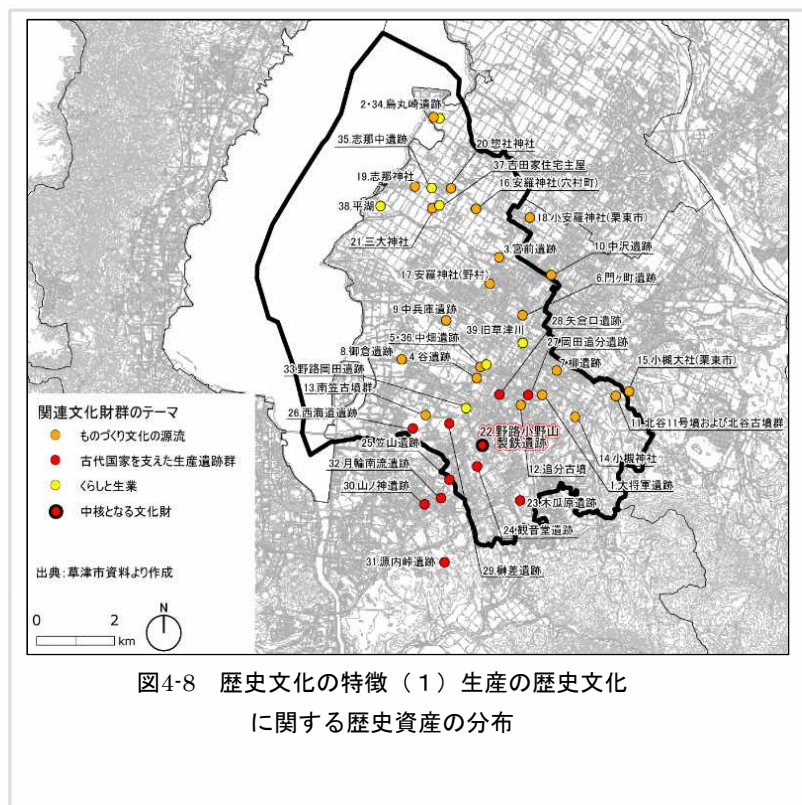
歴史文化の特徴に基づく整備の 推進

草津市の歴史文化の特徴を活かし、文化財の案内看板整備やまちあるき地図等の作成を推進する。文化財を総合的にとらえることでウォーキングコースの策定等を行い、出かけたくなる魅力にあふれたまちづくりを推進する。

歴史文化の特徴に基づく 情報発信

草津市の発行する広報誌に本市の歴史文化の特徴に基づき資料紹介等を行い、本市の文化財の情報発信を行う。市のホームページやSNSなど、目的に応じた媒体を用いて情報発信の充実化を図る。

関連文化財群



草津市では史跡瀨田丘陵生産遺跡群野路小野山製鉄遺跡、史跡芦浦観音寺跡、史跡草津宿本陣の3つの史跡を中核として「生産」「信仰」「街道」の3つの歴史文化の特徴を抽出した。これら3つの歴史文化の特徴は、古代から変わらず本市の特徴として育まれてきたものである。

ストーリー

- ①草津市域のものづくり文化の源流
- ②古代国家を支えた丘陵部の生産遺跡群
- ③人々のくらしと本市の農耕・漁業等
- ④中世以前の信仰と伝統芸能・仏像・神像
- ⑤船奉行として活動した芦浦観音寺
- ⑥中世以後の信仰と現在の寺社建築
- ⑦人々が行きかう宿場と草津宿本陣
- ⑧草津市を形づくる街道と湖畔の港
- ⑨草津の宿場を取り巻く多様な文化
- ⑩街道を彩る名物・人物と近現代の交通路

策定後の成果（見込まれる効果）

①文化財保護意識の高揚

構想の策定を通して、草津市の文化財について意見を取りまとめたことにより、市民が草津市の歴史や文化財に興味を持ち、町の魅力を再発見する機会を設けることができた。今後も構想に基づき草津市の歴史文化の特徴を活かした取り組みを進めることで、文化財保護意識の高揚が期待される。



②まちづくり・観光等への活用促進

これまで草津市では市域の歴史文化について特徴の抽出や全体的な保存・活用方針が策定されていなかった。構想の策定により、草津市の歴史文化の特徴が明らかとなったことで、一体的なまちづくりの方法を検討し、草津市の魅力をまちづくりや観光等への活用が期待される。



③地域連携の推進

草津市に所在する様々な文化財は、これまで種別ごとの指定等により保護が図られてきたが、構想の策定により地域ごとの文化財の分布や特徴が明らかとなった。このことにより、個々の文化財の活用だけでなく、地域と連携した取り組みの推進が期待される。

